

学校評価へのご協力ありがとうございました!

先月末にご協力いただきました学校評価アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。先に記述式の評価についてご紹介いたしましたが、今号では数値によるアンケートの集計についてお知らせします。なお、表形式とグラフ形式で評価をまとめたものがございますので、そちらを合わせてご覧ください。

なお、数値は「とてもよくあてはまる(高評価)」が「4」、
「まったくあてはまらない(低評価)」が「1」
ですから、平均値は「2.5」となります。つまり、各項目の数値が、
2.5以上であればおおむねよい状態
であると考えられます。

3.5以上であれば、大変高い評価をいただいている
ということになります。



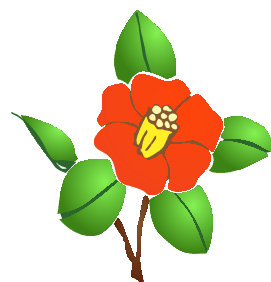
高い回答値の項目

- ① 子どもたちは毎日笑顔で元気よく生活している。
- ⑥ 互いを認め合う人間関係を築くように学級活動を工夫している。
- ⑫ めあてとまとめの整合性を意識して指導を展開している。
- ⑲ いじめの起きない学級集団作りに努めている。



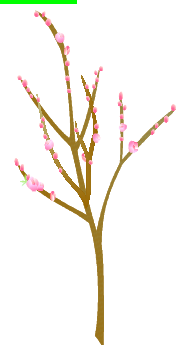
課題である回答値の項目

- ③ 子どもたちは大きな夢を持ち、毎日の生活を頑張っている。
- ⑦ 学校行事には子どもたちの企画や思いを反映させている。
- ⑬ 子どもたちが自分の意見を持てる場を設定している。
- ⑭ 子どもたちが自分の言葉で表現できる場を設定している。
- ⑰ 子どもたちの生活習慣を把握して適切な助言を工夫している。
- ⑱ 家庭と連携して子どもたちの心の健康に配慮している。


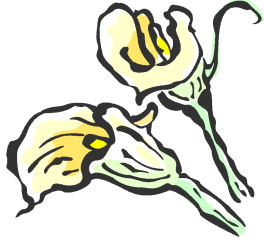



回答値の児童・保護者・教職員の違いのある項目

- ⑤ 道徳で高い価値や自分の生き方をふりかえらせる工夫をしている。
- ⑧ いろいろなことに挑戦する機会を活動に組み込んでいる。
- ⑨ 体験的活動への目的意識を高める手立てを工夫している。
- ⑮ 子どもたちが考えを交流させて深めるための手立てを工夫している。
- ⑯ 体育の時間に健康と運動への意欲を高める手立てを工夫している。
- ⑳ 校地内、登下校路の安全確保に気を配って指導している。
- ㉑ 日常生活や授業でも防災教育を取り入れている。



学年ごとに見られる課題

	児 童	保 護 者
1年生	考えの交流と深化、生活習慣の指導、いじめゼロ	夢を持ってがんばる心、問題解決型の学習、考えを持つ場面の保障、考えを表現する場の保障、家庭との連携、
2年生	目的意識の醸成、考えを表現する場の保障、生活習慣の指導、家庭との連携、いじめゼロ、	仲のよさ、 
4年生	元気な生活、仲のよさ、思いやりの心、道徳的心情、子どもたちの思い、多様な体験活動、目的意識の醸成、問題解決型の学習、 変容観察・形成的評価 、授業のわかりやすさ、考えを持つ場面の保障、 考えを表現する場面の保障 、考えの交流と深化、 生活習慣の指導 、 家庭との連携 、	夢を持ってがんばる心、目的意識の醸成、問題解決型の学習、授業のわかりやすさ、考えを持つ場面の保障、生活習慣の指導、 
5年生	生活習慣の指導、家庭との連携、	夢を持ってがんばる心、考えを表現する場面の保障
6年生	夢を持ってがんばる心 、子どもたちの思い、問題解決型の学習、 考えを持つ場面の保障 、考えの交流と深化、生活習慣の指導、家庭との連携、安全な生活	夢を持ってがんばる心 、子どもたちの思い、多様な体験活動、問題解決型の学習、 考えを持つ場面の保障 、 

太字が児童と保護者が一致して課題だとしている項目です。**反転文字**は回答値が特に低い項目です。

分析



- 1 児童、保護者ともに、【元気な生活】【認め合う人間関係】【授業のわかりやすさ】【いじめゼロ】についての指導はおおむねよい状態であると評価しています。学校の基盤である「目指す学校像」の中の「笑顔」と「楽しさ」については好評価をいただけたものと考えています。「夢」と「感動」の部分ではまだまだ改善の余地がありますので、今後努力していきたいと思えます。
- 2 【子どもたちの思い】を反映させるための手立てが不十分であると感じます。授業中での子どもたちの達成度を正しく見取り、それに応じた評価をしたり、達成していな

い内容については追指導したりする、個別指導やフィードバックが必要です。特に、自我の芽生え始めている4年生には、もっともっと工夫していかななくてはなりません。

③ 子どもたちが【自分の意見】【自分の考え】を持ち、それを【交流する】ことで【深化】させていくことが必要です。学習指導要領でも、「主体的・対話的で深い学び」が大切だとされているとおり、自ら学ぶ【問題解決型】の学習や、学校行事の企画段階での積極的参加などが求められています。

④ 子どもたちの生活習慣の把握と家庭との連携が不十分であると思います。一見すると、連携を強化しているように感じますが、保護者の皆様方としてはやはり、ひざを交えた真剣な話し合いや相談事もおありでしょうし、子どもたちの学力を高めるために必要な情報については教員の知恵をお借りしたいこともあるのではないのでしょうか。また、生活習慣の指導は、心の指導にもつながっていきます。自我の芽生えとともに他者との比較によって悩むことの多くなる時期である4年生にとっては、生き方を一つの例として提示してほしい時もあるのではないかと考えています。



⑤ 学校では指導していると思っても、家庭では決してそう思えないこと、またその逆に家庭では十分だと思っているのに学校では足りないと思っていること、結局は家庭との連携がとれていない一つの事例に過ぎません。特に子どもたちに直接関わっていく内容での、学校と家庭との乖離(かいり・かけはなれていること)は、学校生活を不安定にさせる原因ともなりかねません。学校と家庭とが常に同じ方向に向いていられるような、連携を図ることが大切だと考えます。

⑥ 1・2年生は、児童と家庭との意見が食い違っている項目があります。しかし、4年生は多くの項目で一致しています。これは、1・2年生が学校での出来事や先生の話の正確に伝えることができていないのに対し、4年生は家庭で子どもたちがよく話している証拠であるとも言えます。また、それだけ問題意識を持って生活できているとも言えます。課題が見える時は指導のチャンスです。機会を逃さずに指導していかななくてはなりません。

⑦ 5年生が家庭と評価の違うのは、5年生が最も課題の少ない学年だからです。しかし、いつもよい子でいようとするあまりに、時々疲れの出る時期でもあります。6年生のように、驚くようなことまで言い合える仲ではないのかもしれませんが。



6年生は、自分への要求水準が高くなります。

教職員からも学校のリーダーとして見られます。もちろん家庭でも大人の入り口としてとらえます。なおさら自分の思いが募る年頃でもあります。そのような思いを受け止めてあげているのかなと、ちょっぴり心配にもなります。

では、これからどうするのか

(1) いつでも見守り変容に気づく目を大切に。(手は放しても心放すな) 親御さんにとってもそうでしょうが、私たち教職員にとっても一人ひとりの子どもたちはかけがえのない、かわいい存在です。時に、

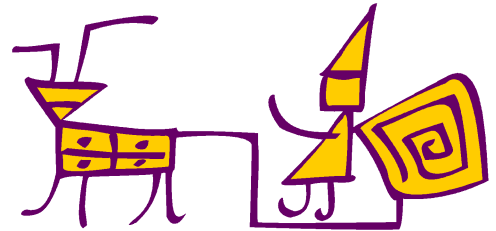


へらず口をたたいたり、生意気なことも言われたりしますが、それはその子の成長の証でもあります。どう受け止めていくのかが大人の学びの場ではないでしょうか。手は放してあげないと子どもたちの自主性が育ちません。しかし、心だけは放さないような指導が大切だと思います。

授業では、子どもたちの到達度をしっかりと見取りながら個別指導をしていく場面を多くしていきたいと思います。せっかくの少人数学級です。教える側の気持ち次第でやれることはたくさんあります。

(2) 授業以外でも子どもたちに発表の場をもっと多く。

例えば、先日の環境創造学習で学んできたことを、5・6年生が自分の視点で、自分の言葉で4年生以下に伝えることを皮切りとして、子どもたちの発信力を高めてあげる指導を積み重ねていきたいと思います。すでに、学校だよりを読み込んで、親さんにとっては余計なことと思われることを覚えている子もいます。ホームページでは書けない、課題についても書いていますから。そういうことも含めて学校からの発信は今後とも継続していきたいと思いますが、子どもたち自身が自分の活動を整理し、考えをもって発表できる場を設定したいと思っています。もちろん、発達段階に応じた指導となります。



(3) 現在がそのまま未来になるのではなく、現在の積み重ねがやがて花咲く未来となる。6年生としては、中学校進学を控えてとても大切な時期だと思います。小学校では最上級生なのに中学生となると最下級生となります。小学校の時ははっきりしなかった学力が、テストの得点だけでなく順位という形で表されます。きまりも違えば授業のスピードも違います。中学校の先生方は入学してすぐに中学生として扱います。それが心地よい子どもいますが、多くは戸惑い、悩みます。ハードルはあって当然です。そのギャップを乗り越えていくだけの力が必要になってきます。中学校の教員としていつもそんなことを感じていました。「小学校はよかったのに…」と感じても戻れるわけではありません。一日も早く「中学校での自分の足場」を固めて、大きく羽ばたいてほしいと思います。そのための計画的なアプローチはすでにはじまっています。

保護者の皆様方にも、小学生の保護者から中学生への保護者へと、意識の転換をお願いします。

(4) 具体的には、

- ① 今まで同様に家庭との連絡帳の交換を密にお願いします。
- ② 5・6年生から、自分の考えを伝える場を設定していきます。それを4年生以下に見させて、少しずつスキルアップしていきます。
- ③ すでに配付しました「家庭学習スタンダード」では、子どもたちの自主的・自律的な学びが大切にされています。



家庭学習は宿題をやる場ではありません。自分の学びを実現していく場です。そのために大切なことは、「夢」を持つことだと思います。4年生頃から少しずつ考えはじめて、もやもやが形になってくるのは6年生の後半。大きな夢は自分を動かす原動力になります。夢を持てるような学校行事はもちろん、授業の中で夢を語り合える、そんな手立てを工夫していきたいと考えています。